

研究公開文書

2022年 7月 1日

研 究 名	急性期脳卒中患者の離床に伴う脳内血行動態に関する研究
研 究 の 概 要	<p>脳には全身の血流が変化しても脳血流を一定に保つ機構、すなわちautoregulationが存在する。脳卒中患者はこのautoregulationが破綻している可能性があり、血圧の低下に伴い脳血流も低下する可能性が報告されている。</p> <p>急性期の離床時におけるリスク管理の指標として非侵襲的な血圧測定が一般的に用いられており、脳卒中急性期において血圧管理は脳内の虚血領域のさらなる血流の低下を予防するため重要である。しかし、非侵襲的な血圧測定は連続的モニタリングが困難な指標である。</p> <p>近赤外分光法（NIRS）は動作時の脳内の血行動態を非侵襲的かつ連続的にモニタリングできる機器である。NIRS装置を用いた脳内の血行動態の測定が新しいバイタルサインの指標となると考える。そこで本研究の目的は、ウェアラブル型NIRS装置で得られる指標が、離床時の脳血行動態を反映する指標となるか検討することとした。</p>
研 究 対 象	対象は2021年8月から当院に入院した脳血管疾患患者とする。除外基準は同意を得られないものとする。
研 究 責 任 者	小田原市立病院 リハビリテーション室 小澤哲也
研 究 実 施 期 間	研究許可日～2026年7月
連 絡 先	小田原市久野46番地 小田原市立病院 0465-34-3175